

1.本研究の意義

製紙産業は生活に不可欠な普通紙や衛生用品、段ボール原紙などの製品、また包装洋紙や情報用紙、グラフィック用紙など多様な製品を供給している。

しかし、地域産業としての製紙会社や生産・流通プロセスに注目した研究は少ない。先行研究として鈴木茂(2013)が存在するが、紙産業の集積や生産能力を説明するのにとどまり、地域経済に与える影響については研究されていない。

本研究では製紙工場が数多く立地する静岡県富士市を事例に、地域産業としての製紙産業についてデータを収集し、産業構造の変化について考える。

2.製紙産業の概要

洋紙を扱う製紙産業は明治時代に勃興し、人口増とともに拡大を続けたが、コンピュータの普及を中心としたペーパーレス化に伴って普通紙の需要は減少した。そのため、製紙工場は統廃合が進み、減少傾向にある。

現在はトイレットペーパーやティッシュペーパーなどの衛生用品や、通販需要の拡大に伴ってダンボール紙の需要が高まっている。今後は紙を生産するだけでなく、付加価値を付けて利益を拡大する方向性へ向かっていくとみられる。

3.紙の流通プロセス

以前は貨物列車によって輸送され、消費地に近接した流通センターから各地に配送されたが、現在はモーダルシフトが進み、工場間輸送の輸送もトラックが

行うのが基本となっている。

工場と消費・販売の間には仲介する事業者が存在するが、基本的に製紙会社のグループ内で行われる。

4.紙の生産プロセス

製紙産業は基本的な部分が一社の工場内で完成するため、系列企業外から介入する部分は少なくなっている。紙そのものではなく、加工を必要とする製品は様々な企業が関わっており、そのような企業は必ずしも製紙産業の集積地に存在するとは限らない。

5.富士市の概要

静岡県富士市は東海道筋に位置する市で、水資源が豊富であることや紙の消費地である首都圏が近く、1890年から製紙産業が立地する場所となっている。

長年に渡って製紙産業は富士市の雇用と経済を支える柱となっていたが、合理化に伴う人員整理により現在は第二次産業よりも第三次産業の就業者の割合の方が高くなっている。

6.富士市が抱える課題

豊富な水資源によって製紙産業や部品製造業などの向上が多く立地する富士市だが、工場の地域外への移転による人口流出などの課題が存在する。

7.まとめ

今後はデータの分析と取材による情報収集を行い、製紙産業の変遷と富士市の経済について考えていきたい。